

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501928		
法人名	株式会社 オストジャパン		
事業所名	グループホーム いきいき		
所在地	札幌市白石区北郷9条3丁目3番1号 (電話) 011-875-8011		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 24人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 造り		
	3階建ての 1～3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)		39,000 円	その他の経費(月額)	暖房費(11～3月) 7,000円
敷金	有(39,000円)	26,000円	水道光熱費	18,000円
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	カーテンリース	1,000円
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	9名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	6名		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84.1歳	最低	72歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野幌内科クリニック。札幌トロイカ病院。高橋歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来、掛り付け医師との連携が良好で、週に数回事業所へ利用者のための往診を継続している。血圧測定など健康管理に適切な指導や助言を受け、利用者のみならず、家族と職員の安心につながっている。往診医師と職員や利用者とは馴染みの関係になって、気軽に相談できる仕組みになっている。日常的な買物や、利用者本位の夕食や家族も含めた温泉1泊旅行など屋外行事が実施され、利用者の楽しみを支援している。利用者の共有居場所は広くテレビも2台設置されるなど、ゆったりとした暮らしが継続されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 居間の時計やカレンダーは見やすい位置に掲示されている。申し送りは職員間の連携を良好にして確認しながら伝達洩れのないように改善されている。注意の必要な物の取り扱いもルールを決めて安全に保管されている。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 自己評価はユニット職員全員で、1ヵ月かけて各項目について話し合いを積み重ね、見直しの要する項目は改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では事業所から出席者へ報告をし、出席者からの意見を求めているが、情報交換の場となっている。開催回数を重ねることで、お互いの要望など具体的な行事の参加に至っており、地域の理解が深まってきた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所では家族に「おたより」を発行し利用者の様子を知らせている。「意見箱」の設置があるが殆ど記載がないので、面会時に職員は意見を聞くようにしている。運営推進会議に家族の出席を求めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は家族向けの「おたより」のほかに地域向けの「たより」を発行している。町内の行事に参加したり、隣のケアハウスと交流をし、広い浴室の利用など日頃から連携を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念を毎朝の職員の集まりで復唱し理念の共有をはかっている。さらに事業所独自により具体的なホームの五訓を作成し、理念同様基本としている。「地域の中で」が理念としては盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスとしての理念が含まれていないので、内容の検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの場で理念の具体化を意識して、ケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事に参加し町内会向けの「たより」を作成して各戸回覧している。また、隣のケアハウスと交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の取り組みは、今年度新しい視点で職員全員で1ヵ月掛けて各項目について話し合いを続け、具体的に見直しをしている。		

札幌市白石区 グループホーム いきいき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度2回、平成19年度2回開催されているが、内容の再確認、目的の確認など出席者も含めて、記録の不備が見受けられる。	○	会議の内容の吟味、出席者の構成、記録の充実など検討されて取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区内のグループホーム連絡会議の出席や行政からの通達の重視、報告など連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所としての「おたより」は季刊に発行している。ユニットによっては毎月お知らせを発行している。毎月利用者の家族に手紙をつけて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が参加し、意見を求めて聞き取り、また「意見箱」を設置し家族の要望などを聞くようにしている。面会の時、気軽に職員と話し合いができるように日頃から取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ避けるように配慮しているが、止む得ず交替がある場合は利用者が不穏にならないように注意し、新たに馴染みの関係が作れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修会、内部の勉強会、また外部の研修にも交替で参加し、学びを繰り返し実施してケアの向上に努力をしている。記録も見やすく分かりやすい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にグループホームがあるので、交流の場を設けている。ともにケアの向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所を利用するに至るまで、本人が納得できるように何回も見学や面会を重ね、家族も了解してサービスを開始するように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から数々のことを長年の経験から教えられ、生活の知恵や慣習などともに築いていく歩みを作り出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の係わりの中で、利用者の思いや意向の把握に努めて、寄り添うことを支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は話し合いを重ね、個人でケアするより協力し、家族や知人を含めて介護計画にもとづいて暮らしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の介護計画は実施できるように支援し毎月のように見直しをしている。概ね3ヵ月を目途にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしての利用者とのケアより、一人ひとりに即対応し、柔軟に利用者本意に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と話し合いで協力クリニックの往診を受診している利用者がほとんどで、毎週医師の来所が日常的に行われ、馴染みの関係で信頼関係も良好で家族の安心になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族と早めに話し合いを持ち、事業所としての指針にもとづいて方針を決めて支援している。事業所としては、看取りまで係わった事例はある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドを損ねないように言葉掛けや、対応など利用者本意に支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が決める場合もあるが、利用者の希望や考えなどに添って過ごし方を選んで支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は利用者の楽しみとなるように、職員は利用者とともに台所で準備をし、同じテーブルで和やかに食事をし、さりげなく利用者に支援をしている。また後片付けや食器ふきを役割として手伝っている利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりしたバスルームで見守りを受けながら、入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の経験を活かして家事の仕事を楽しみながら協力している。それぞれに役割がきめられ、生きがいとなっている場合もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所で自由に使用できる車を保持し、利用者の希望に合わせて買物や散歩などの外出支援をしている。また、年に1度利用者、家族、職員で1泊温泉旅行を実施し、好評を得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口に開閉が把握できる工夫があり、日中は鍵を掛けていない。又、支援事業所と共用玄関で夜間のみ施錠している。		

札幌市白石区 グループホーム いきいき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力を得て、避難訓練など災害について、日頃から避難できる体制を整えている。年に2回実施している。また、運営推進会議で地域に呼び掛けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量など個別に記録があり、献立表は年1度、専門家の点検を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂は広いスペースが用意され、利用者はそれぞれ好みの居場所があり、金魚がいたり、鉢植えがあり、生活感のある居心地のよいたたずまいとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自、居室にはタンスやベッドさらに馴染みのものなど、生活スタイルに合わせて用意し落ち着いた生活の場になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。